

# 日中友好新聞

日中友好協会  
愛知県連合会  
県連版第326号  
〒464-0821  
名古屋市中種区  
末盛通4-18  
電話052-763-1152  
Fax 052-763-1153  
http://www.  
nittyu-aichi.jp  
E-mail: jc77918@  
amber.plala.or.  
jp  
郵便口座  
00890-6-25484

## 「あいち平和のための戦争展」に参加



8月10日(金・山の日)に開催。

▼愛知県連はパネル展示「村瀬守保写真展」

「日本兵が撮った日中戦争」(写真上)を行いました。

▼山本恒人氏は、様々な客観的資料とデータを駆使し、以下のように論を進めました。

①中国は台湾を尊重している。②勃興する中国に対する米国の危機感が根源にある。③そのため「中国は一つ」の国際条約を破り「台

湾有事」を創出している。

▼4月具体的には、すでに米国の委員会で「台湾施策案」

府に同盟国として外交特権を付与、台湾に攻撃兵器供給、作戦計画、訓練も想定しています。

▼これは1979年の米中国交正常化の合意を一方的に破棄することになり、宣戦布告に等しいものです。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

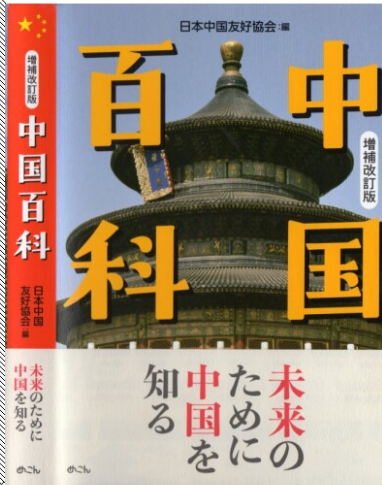
▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。



### 第14回「中国百科」検定(12月2日実施)の受付開始

▼今回は(初級、3・2・1級・特級)の全級が受験できます。

▼県連は会員の受験者に10000円(準会員は5000円)の補助をします。

▼毎木曜日(県連)で過去の学習会を

行います。

今年4月発行のテキスト・増補改訂版(写真)好評です。県連で

は、中国を知る一般教養書としても

お求めになれます。

## 講演：作られた「台湾有事」・米中対立の中の日本

▼4月具体的には、すでに米国の委員会で「台湾施策案」

府に同盟国として外交特権を付与、台湾に攻撃兵器供給、作戦計画、訓練も想定しています。

▼これは1979年の米中国交正常化の合意を一方的に破棄することになり、宣戦布告に等しいものです。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼米国の「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

▼日本と中国も日中共同声明に基づいて国交を正常化しました。

互いに「脅威」とならない合意原則を守り抜かなければなりません。

中国語教室の受講生を募集中です。一緒に楽しく中国語を学習しましょう。



## 若い世代の参加進む

▼今回の「戦争展」を通して、展示会場のあちこちで、担当者に説明を求める若者の姿が目立ちました。大変勇気づけられます。

▼あいち戦争展の特色は多団体の参加にあります。見学者にとって「見やすい」展示方法や、持ち帰り資料の提供などが必要です。



## 4年ぶりに長春の「偽満皇宮博物院」が来日・参加

8月12日(土)午前11時、長春の偽満皇宮博物院王昊(ワンハオ)研究部長によるスピーチ「聞き取り調査で明らかにした偽滿州国「新京」に於ける軍政一体の細菌戦協力体制」があり、約20人の参加がありました。

▼主な内容は、次の通りです。

①ここ数年、当博物院は、日本軍の中国侵略に関する第二部隊の細菌兵器の開発と細菌戦の実施に関する歴史的事実の研究をしてきた。

②第二部隊、第五部隊、関東憲兵隊偵察隊、第四班などに属した退役軍人ら、存命する日本陸軍退役軍人70名に、3年間にわたり訪問して聞き取り調査をした。

③細菌兵器は国際社会で禁止されていたため、第二部隊は、馬防疫所として設立されたが、当初から日本の陸軍省、参謀本部、関東軍司令部によって厳重な機密保持のもと、その本質を隠し通した。

④歴史の聞き取り調査から、第二部隊の司令部は、偽滿州国「新京」の孟家屯兵舎にあり、厳重に警備され、要塞化されていたことがわかった。(以下、省略)



▼博物院からは、コーナーに展示された「侵華日軍第一〇〇部隊《留守名簿》整理と研究」(日本語訳)3冊が県連に寄贈されました。

